

## 「2024 サポーターズカンファレンス」議事録

日時：2024年2月29日(木)

場所：いわぎんスタジアム／大会議室

出席者：代表取締役社長 秋田 豊  
代表取締役副社長 中村 文哉  
強化育成部部長 中村 学

### 【社長あいさつ】

(秋田豊)

皆さまこんにちは。株式会社いわてアスリートクラブ代表取締役の秋田です。よろしくお願いいたします。本日はお忙しい中、また日中にも関わらずお集まりいただき本当にありがとうございます。

皆さまいつも応援していただいて、本当にありがたく思っております。

サポーターズカンファレンスですが、今後クラブが良くなっていくためサポーターの皆さんに満足いただけるように色々な意見を出していただき、改善していきたいと思っていますので、短い時間ですがどうぞよろしくお願いいたします。

### 【2023 シーズントップチームのご報告及び2024 シーズンの展望について】

(秋田豊)

2023 シーズンのトップチームの報告をさせていただきます。

先ず、2023 シーズン本来であればJ2に上がりたいと思って戦いましたが目標を達成することができなくて大変申し訳ありませんでした。2023 シーズンは11位という結果に終わりました。松原新監督を迎えスタートダッシュをかけることは出来たのですがその後、勝ち点が伸び悩む状況でした。シーズン真ん中を過ぎたあたりから徐々に、このままではJ2に上がることが不可能ではないかと感じ、監督交代の決断をしました。YSCC 横浜との試合の際、残り10分の時に3点取られ逆転負けしたところで最終決断をし、当時ユースの監督だった中三川氏に監督をお願いしました。中三川監督就任後、1試合あたり約1.9の勝ち点を取り、優勝ラインの乗るだけの結果は出してくれたと思います。本来であれば中三川監督をユースの監督で引き続きやってほしいと思っていましたが、私のもとでヘッドコーチとしてJ3からJ2に上げた経験と実績がありますので、どういうリーグかということも理解しており、そしてアカデミーにトップの練習やフィロソフィーを落とし込むため、普段からトップチームの練習を見てくれたので、すんなりと選手たちを把握出来ていました。これらのことから2024年シーズンも監督をやっていただきたいと思いいクラブとして続投をお願いし、快く引き受けて頂きました。

今シーズンの展望をお話させていただきますが、選手たちの3分の2程度がJ2・J3のチームに引き抜かれたため、新たに選手を探し獲得していきましたが、今までにないくらい良い選手たちが来てくれたと思っております。グルージャからJ2に行った選手が5人居ましたが、この結果はグルージャが行っているサッカーや選んでいる選手が間違いではなかったという事を証明してくれたと思っております。そこをしっかりと踏まえて今シーズンは、上のリーグに選手を獲得されたとしても、違約金という形が取れるよう、改めて契約をしております。今現在第1節の讃岐戦を終え、1対1の引き分けでした。前半は非常に良い入りをしたのですが、後半に1点を取られドローという結果になりました。出だしとしては最低限の結果は出してくれたかなと思っておりますが、まだまだしっかりビルドアップをしながら選手たちに日々成長していってほしいです。そして今シーズンは3位から6位までは最後プレーオフを行って上がるチャンスがあります。もちろん1位2位を目指していきたいと思っておりますが、最低でもプレーオフに残れるよう頑張っておりますので、ご声援のほどよろしく申し上げます。

#### 【2023 シーズンアカデミーのご報告及び2024 シーズンの展望について】

(中村学)

皆様こんにちは、いわてグルージャ盛岡の育成部の中村と申します。常日頃からご協力いただきましてありがとうございます。私の方からはアカデミーだけではなく育成部普及に含めてご報告させていただきます。2023年度はU-12が28名U-15が50名U-18が30名計108名で活動して参りました。普及部のスクール生が168名で着地見込みとなっております。昨年度のサポーターズカンファレンスでもお話ししましたが、秋田社長が社長に着任されてから、マイクロバスを1台アカデミー用で購入していただきました。マイクロバスのおかげで活動範囲を広げることにも役立ちましたし日々の送迎や保護者からもポジティブな声をいただきました。今までは東北各地の遠征しかできなかったがバスを購入していただいたおかげで2023年度から北海道から北信越・関東などの様々なチームと交流を深めることができました。ただ、ジュニアユースが守り続けてきた東北みちのくU-15北リーグから今年度は県リーグ一部に降格となりすごく不甲斐ないシーズンを過ごさなければなりません。要因としましては現在1月・2月・3月は1年間闘える体づくりと頭を鍛えるTRの質が低かったことが上げられます。外で活動ができない状態で強度を高めるために室内で日々の併用を含めてそれをどのような形でピッチに表現できるかといったところがアカデミー内でも激論もありました。ただその中でも当時ユースの監督だった中三川がやり続けること、強度を高めていくことそれを1年間保てるかという所を常に念頭に置きながらやって参りました。ただジュニアユース年代のところでは中学校1年生・中学校3年生子どもから青年にのびさかる成長期の中で強度を保てるだけの身体づくりという所がままならなかったという所が反省点です。展望のところでもお話させてい

ただくのですが、今現地点でジュニア・ジュニアユース・ユース・スタッフも含めて全員でどのような形で強度に保てられる身体を作っていくかという所含めて色々ミーティングを行っています。それを具現化するために、子供たちにどのように落とし込むかの前に、まずスタッフ1人1人が指導者としてあるべき姿、日々学んで社長が考えているアカデミーのプランでもありますが、誰にも絶対負けない武器っていうものを1つでも多く身につけるために今、ほぼ毎日練習をしております。雪の上でも19時から21時保護者のご協力も賜りながらすごく強度を高めるトレーニングも日々しております。スタッフに関しても6名2023年退任しました。その中で、2024年度に新たに7名の新任スタッフを迎えることができました。

その中でも、アカデミーダイレクター兼ユース監督の石田学という人間を招集することができました。FC琉球のアカデミーダイレクターの経験もあり、昨年度は、愛媛の方で着任されていたスタッフです。まずはアカデミーとしてのプレーモデル、コーチングカリキュラム、トップチームが掲げているサッカーのフィロソフィー、要は哲学をすごく忠実に守りながら、アカデミーとしてもっとパワーアップできるこのサッカースタイルを構築していこうという形で今トレーニングマッチも毎週土曜日、日曜日に入れております。

その中で強度を高めていきながら、結果を求めていく。そして、育成部としても掲げている1人でも多くの選手をトップチームに排出できるようにという形を常日頃から全部のスタッフで共通意識を持ちながら行っております。

ですので、その7名の新しいスタッフと元々いるスタッフでまずトップチーム、あとはクラブが掲げるサッカースタイルを具現化そしてその目標に対して達成できるプロセスを日々構築していきながら前進していきたいと思っておりますので、ぜひアカデミーの方にもご支援、ご協力のほど、引き続きよろしく願いいたします。

以上で報告を終わりたいと思っております。

(秋田豊)

補足ですが、ジュニアユースに関しては本当に残念な結果で終わってしまったのですが、ただ暗いニュースばかりじゃありません。高校1年生の選手ですが、もうすぐにでもトップチームでもやっていける、そして近い将来レギュラーになれるような選手もいます。他にも、札幌から来てもらったゴールキーパーの選手も見込みがあり、トップチームの練習にも参加しています。この2人に関しては将来トップチームでできる才能を持っていますので、もっとビルドアップしていきたいと思っております。今現在は岩手県の子供たちはいませんが、将来的には育成のそこから上に上がって、トップで活躍できるような選手がたくさん生まれてくるようにクラブとして育成に力を入れていきたいと思っております。

【事前質問】

(中村文哉)

皆さまこんにちは。中村と申します。本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

また、今回のサポーターズカンファレンス開催に伴い、たくさんのご質問をいただき、誠にありがとうございます。

いただいた質問に関してお答えしていきたいと存じますが、同性質のご質問等、時間の関係上、全てにお答えできませんことを予めご了承ください。

- ① トップチームに関して
- ② クラブ運営に関して
- ③ 広報部門に関して
- ④ ファンクラブ特典に関して
- ⑤ ホームタウン活動に関して
- ⑥ スタジアム・クラブハウスに関して
- ⑦ 集客対策に関して
- ⑧ 観戦に関して
- ⑨ その他に関して

(中村文哉)

先ず①トップチームに関してですが、ご質問として、

■2024年シーズンはJ3優勝を目指すとのことですが、そのために必要な勝ち点はどの程度だとお考えでしょうか。

■今年の、中三川監督への交代理由は「J3での戦い方を知っている」とのことでしたがJ2昇格・定着までを見据えたビジョン・どのようなサッカーを目指す、というのがありましたら教えてください。

と、いただいております。

(秋田豊)

はい。勝ち点に関しては、1試合あたり2ポイントを取ることで76ポイントを目指してやっています。今年の優勝ラインが1.93ぐらいなので2ポイントであればもう十分に上に上がれると考えています。その割合とすると3勝1敗1分けになります。それで10ポイントという形になりますので、そのポイント数を1試合あたりに取っていけば十分に上がれると思っています。

そして中三川監督の交代の理由ですが、先ほども話しましたが、J3の戦い方を知っています。私の元で、2021年上に上がった時には、どういう風にやったら上に上がったのか、どういうサッカーが相手にとっては嫌なのかということも十分に熟知している監督だと思っていますので、彼を選びました。

J2昇格、定着までを見据えたビジョンに関しまして、自分たちでボールを持つ時間をという風に思うのですが、自分がそのJ2を戦って感じたことっていうのは、選手の個の能力というところ、ここに関しては非常にJ2リーグを戦う上でかなり疲弊していました。

2022シーズンですね、J2の時期に戦っていた選手たちが精神的な疲労感を感じました。これに関しては、やはり個の能力、技術もそうですし、体力っていうものは非常にあったと。コロナの関係で、キャンプの時に強度を高めなきゃいけない時にできなかった。このところがあったからこそ、こう乗り切れなかったのではないかと考えております。なので、もちろんポゼッション率も高められるような質の高い選手っていうものを招聘しております。そこに関してはなおJ2に向けても十分に繋がっていく選手たちを招聘している。そしてサッカー的には変えないでいこうと思っています。

選手の個の能力、そのフィジカルなところをしっかりと取るトレーニングの中で上げていって、自分たちでボールを保持することをまずメインにするのではなくて、まず立ち戻るところは守備。守備のところできちんとした組織を作り、そこからの攻撃はベストな、そして自分たちでも組み立てができるようなチーム作りっていうのをしていきたいと思えます。例えば、バックパスが非常に多いサッカーよりも、相手の背後をどんどん狙っていく。全てが全部を狙っていくわけじゃなくて、しっかりとボールを動かしながら背後を常に狙う意識を持って、行ける時には行くっていう、そういうサッカーを目指してやっていきたいと思っています。

(中村文哉)

続いて②クラブ運営に関してですが、ご質問として

■昨年は大幅にスタッフの人員を削減したとの事ですが、クラブ業務においてスタッフの手が回っていないように感じられます。

その割にはこのオフの補強は有名で高給そうな選手も数多く、ピッチ内とピッチ外の人件費のバランスが非常に悪く感じられます。多少成績が悪くならうとも、まずはサポーターや観客へのサービスを拡充する事を優先した方が良いのでは無いでしょうか。丁寧に説明をすれば理解してくれるサポーターは多いはずですよ。

■昨年はビールの350ml缶が600円で販売されていましたが、プロ野球の横浜スタジアムですら550円です。利益率を優先するのは分かりますが、あまりにも環境と値段が釣り合っていないのでは。

と、いただいております。

(中村文哉)

クラブ予算に関しては選手費用が優先順位の1番という考えでおります。

年々J3のレベルも上がってきていると感じており、その分選手費用に配分が偏っているの

は事実です。勝てる可能性を少しでも上げることが重要だと考えており、下位争いのチームから抜け出し、上位争いができるチームになる事。この事が1番優先順位が高いと我々は考えています。

ご質問頂いたようにサービス拡充もしていかなければいけないと感じています。このようなご意見を真摯に受け止め運営に活かしていきたいと考えております。

また、ビールの価格やドリンクの価格に関しても同様で、とにかくクラブ資金がまだまだ不足しています。こういったところからでも資金を貯めていき、優先順位の高い順に投資していこうと考えております。

(秋田豊)

J2の時アウェイも含めて、今現在よりも多くの方々にスタジアムまで足を運んでいただきました。ただ、そうしていても試合単体で見ると興行収支としては赤字でした。ですが、昨年はその2022年に比べると来場者は減りましたが、興行収支として黒字でした。その背景として利益構造の土台をしっかりと作りました。クラブを存続するため、強くするためには資金が必要です。今までスタジアムグルメの出店料はいただいておりませんでした。昨年からはいただいております。駐車場に関しても有料とさせていただきました。これらに関して、不平不満をちょうだいすることは重々理解しています。ですがクラブが存続していくためには必要なことで、僕が決断したことです。こうする事でクラブも昨年より利益を出すことができ興行収支として黒字化できました。

これらに加えて、今後私たちがもっと力を入れていかなければいけない事は、もっともっと多くの方々に試合を見に来てもらうことです。そうすると、スポンサーフィーのみに依存することなく、自分たちで運営費を生み出すことができ、更に興行自体の充実を図っていけるのではないかと思います。ご理解いただければ幸いです。

(中村文哉)

続きまして③広報部門に関してですが、ご質問として、

■今回のサポーターズカンファレンスが平日昼間の開催となった理由を教えてください。夜間、たとえば19時からといった時間での開催は難しかったのでしょうか。

■試合後の監督コメントが昨年は数日後にリリースされていましたが、試合当日に出すことはできないのでしょうか。他のJ3クラブもほぼ全てのクラブが当日に出していますので早急に改善をお願いします。

■クラブ公式YOUTUBEにアップされるハイライト動画に、失点シーンや試合終了シーンがないのは何故でしょうか。

■秋田社長が就任会見で語っていた「SNSの拡大」ですが、拡大以前に現状どのサービスも「使えている」とは思えません。

岩手ビッグブルズさんのように「同じ情報でも何度も送り出す」ことなど、とにかく動い

ているという印象を与えることが必要だと思いますが、どのようにお考えでしょうか。

■近年はオフ期間を除いて負傷者のリリースがありませんが、長期の離脱についてはリリースできないでしょうか。コロナも明けて、リリースをするクラブもかなり増えてきています。短期的なものは必要ないと思いますが、2~3か月以上の長期的なものに関してはリリースをして欲しいです。そうでないとサポーターの間に余計な憶測が生まれたりもします。ピッチ内の事を大事にするのは分かりますが、マイナスが少ない事に関してはサポーターへ情報を開示する事もお願いします。

■クラブからの情報発信につきまして

例えば昨年、宮崎戦の試合前、ピッチ外で、社長より現地サポのみへ、口頭でとある件での説明がありましたが、(この件に限りませんが)今後の情報発信で、現地にいない人で、得られる情報の差を少なくして頂けると助かります。また、変な憶測などを呼ばないためのエビデンスの意味でも、サイト上に残して欲しいです。秋春制についての説明はすぐにサイト上にアップされましたが、あれは良いと思いました。

■誤字や相手チームエンブレム間違い等見られましたが、チェックを行う時間・人数等は大丈夫でしょうか。また昨年的那須選手の契約について、初報で「一週間のみ」というのを公式で明記すべきだったかと思います。いずれもご担当の方を責めたいのではなく、推敲・チェック体制の拡充をお願いしたいです。

■電車で通勤していますが、盛岡駅でのユニ展示や、秋田社長・水野選手のマナー啓発・電車内アナウンスなどの取り組みは嬉しく思いますし、継続・拡大して欲しいと思います。今年も同様の取り込みはありますでしょうか。岩手飯岡駅西口の看板の日付・エンブレム入れ替えにつきましても、いつもありがとうございます。その上で、できれば駅からスタジアムまでの道に何か、雰囲気が上がるものが欲しいです。

■現地に行けないサポーターのためにアウェイ試合前のインスタライブを再開して欲しいです。昨年開催したようなファン感謝イベントを今年もお願いします!

と、いただいております。

(中村文哉)

まず、サポーターズカンファレンスの開催時期・時間に関しては、次年度検討させていただきます。

監督コメント等発信に関してですが、ご指摘の通り少し遅い対応になってしまい申し訳ございません。こちらは当日配信できるよう、早急に改善を図ってまいりたいと思います。ハイライトシーンに関してですが、映像をいただける契約があるのですが、今まで無料契約をしていたため、自チームの得点シーンしかなかったのですが、今シーズンは契約を変

更し、相手チームの得点シーン等、視聴できるようにしました。またその動画を、選手が拡散できるようなものに変え、より多くの方々の目に留まるようにしていきたいと思えます。

また、選手のリリースに関してはトップチームの情報統制方針ですので、ご理解いただけますと幸いです。

クラブからの情報発信に関して、より正確により多くの情報を発信できるよう、広報部門の人数を増やし対応してまいります。

皆様に楽しんで頂けるようなイベントや取り組みも考えておりますので、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

(秋田豊)

人員を減らした件ですが、コスト削減が主な理由でした。しかしながら以前の20名のスタッフがおりましたが、これだけいても十分に機能しなかった部分が非常に多かったと内外から報告を受けました。であれば少ない人数で逆に仕事量が増えますが、めいっぱいしっかりと働いてもらいスタッフたちにしっかりとした対価を払うことが1番良いのではということでスタートいたしました。

ただ、人的不足を改善しなければならないと感じたところは、人員を3名増やしました。少人数体制での運営に関して1年でだいぶ見えてきたので、体制を見直しています。

(中村文哉)

続いて④ファンクラブ特典に関してと⑤ホームタウン活動に関してですが、ご質問として■タオマフやグッズが欲しいので毎年ゴールド会員になっているが、観戦チケットはS席だけでなくS席A席どちらでも選べるようにしてもらえないでしょうか？そうすれば知り合いを連れてS席で観戦したり、ゴール裏で声出し応援など色んな観戦方法が楽しめて良いと思えます。

■2024シーズンのホームタウン活動の方針と活動の見通し、クラブが思う地域との関わり方についてお伺ひしたいです。

と、いただいております。

(中村文哉)

今までクラブまでお問合せいただいた方や、試合当日総合案内所でお問い合わせいただいた方には、当日の観客数の状況を見てご案内しておりましたが、正式にホームページに、グレードダウンは試合当日に総合案内所にて可能、と記載させていただきます。こちらも当日判断となりますので予めご了承ください。



ホームタウン活動に関しては、引き続き地域密着の取り組みを続けていきたいと思っています。また、今年は教育委員会を通じ選手による小中高でのイベントもやっていきたいと思っています。

(秋田豊)

ご存じの方がいらっしゃると思いますが、IMO 鶴と格之進ハンバーグは、県内の人が集まる場所に出て行って、いわてグルージャをしっかりと広告できるように、そして皆さんにいろいろなものを提供できるようにしていきたいという風に思っております。

(中村文哉)

続きまして⑥スタジアム・クラブハウスに関してですが、ご質問として、

■スタジアム建設に関して、2/7のニュースで協議会が停滞していることが報じられたが、募金活動はいつ頃から開始を予定しているか教えてください（可能であれば盛岡市のふるさと納税を活用できると集まりやすいと思います）

■紫波町で進められるクラブハウス整備について、引き続きふるさと納税で募っていますが、クラブハウス以外に整備したいこととしてなにかありますか、また進捗があれば随時X等のSNSを活用して発信いただきたいです。

■社長の話やTVでの情報からJ1ライセンスに関しては地方の状況次第で収容人数の緩和で取れる可能性があるのは承知している。

J1ライセンスを取れるのであれば今度は上のACLなど使用するAFCのスタジアム基準もいずれは考えないといけないと思われる。

前々回の天皇杯で優勝した甲府はACLではスタジアム基準を満たせなかったのかは不明だが甲府のホームスタジアムではなく国立競技場で行った。

ACLでのスタジアム要件調べると座席数だけでいうなら背もたれ付きの座席が5000席あればその要件はクリアできる。

他にも色々要件はあるし現状グルージャとしてはまだ先の話ではあると思うが、いわスタでも基準を満たしていれば5000席でもACLを戦える様になるかもしれないと思っている。

スタジアム改修に関しては出せない情報はあると思うがACL等にも出れるようなスタジアム改修も考えているのか聞きたい。

と、いただいております。

(中村文哉)

まず、募金活動はスタジアム建設地が確定次第、スタジアムで実施します。ふるさと納税を活用した取り組みは盛岡市と協議を行っておりますので、進展があり次第クラブから発

信じていきます。

クラブハウス以外に整備したいのは、グラウンドを整備したいと考えております。既に候補地はいくつか訪問し、それぞれの様々な環境や課題と向き合い、問題点を解決していきたいと考えております。

また、Jリーグと協議している、全天候型のグラウンドの話もございます。7割Jリーグ負担での取り組みとなる予定ですので、実現に向けて動いていきたいと思っております。

そして、できるならACLのスタジアム条件にも合格できるスタジアムにしたい。という思いはございます。ですので、増設の可能性も残した改修方法でも取り組みたいと思っております。

(秋田豊)

テレビ等でお話はしていますが、本来ならJ1であれば1万5000人の席が必要でしたが、もう今現在は5000席の個席1人1人の席があって、全て屋根がかかっている。これだけでJ1のスタジアム規定をクリアすることが出来ます。もちろん大型オーラビジョンや各専門の施設が必要ではございますが、収容人数の緩和は確定しました。そちらも含めてこちらは準備をしております。

(中村文哉)

続いて⑦集客対策に関してですが、ご質問として

■1/14新体制発表会の際、秋田社長が集客増加に言及されていましたが、具体的施策があれば教えていただきたいです、

■2023年シーズンではホームゲーム入場者数がリーグ21位です。今シーズンの目標としている入場者数を教えてください。

■社長のTV等で集客を増やすために「サポーターが+1として身近な人をいわスタに連れてきてほしい」といった事を言っておりこちらとしても協力はしたいが、ただ単に試合に呼ぶというものなかなか難しい所もある。スタンプラリーでも何でもいいので、何か口実にしやすくきっかけになるようなイベント、キャンペーンなどを行ってくれないか？

と、いただいております。

(中村文哉)

集客対策に関してですが、

先ず、1試合平均2000名を目標としています。現状では大変難しい目標であるかとは思いますが、目指すことを諦めるわけにはまいりませんし、その為に試行錯誤を繰り返していきたいと思っております。

その一環として先ず1つ、子どもとお年寄りの方々にはワンコイン500円での観戦を可能

にしました。また、試合前やハーフタイムなどのイベント等、もっと地域の方々を巻き込む様な内容を各方面に働きかけています。あわせて試合内外でのイベントにも注力してまいります。

さらに、メディアでの選手や秋田豊の露出機会を増やして注目を集めていき、より多くの方にいわてグルージャ盛岡を応援して頂けるきっかけづくりを行ってまいります。

(中村文哉)

続いて⑧観戦に関してですが、ご質問として、

■岩手県を離れてしまい、アウェイ観戦が中心となっています。ファンクラブ会員はホームチケットが特典となっているため、岩手を離れたサポーターにもお金をクラブに落とせる仕組みを提供してほしいです。

■ナイトゲームにおけるペンライトについてです。勝利時のイベント『WHITE NIGHT』の案内において「試合中の点灯は試合進行の妨げとなりますので、ご遠慮ください。」

と書かれており、グルージャファン・サポーターは試合中の点灯をしていなかったと思います。しかしアウェイサポーターについては、試合中に点灯したペンライトを振りながらの応援、試合を通じて点灯したペンライトを横断幕と一緒に吊るす、といった行為が複数試合で見られました。禁止なのか禁止ではないのか、正式にはどちらなのか教えてください。

■2022 シーズンはイベントとしてわんこそば対決を行っていたのは盛り上がるし非常に良いと思うが、ゴール裏やバックスタンド側からだど遠過ぎて何してるのか状況が全くわからなかった。今シーズンもやるのであれば YOUTUBE でのライブ配信もしくはスタジアム後方の野球場と繋がる広場で場所を変えて出来ないか？

■手荷物検査を必ずやってほしい。最初の頃は良かったが次第にやってない時があった。他チームの事例であるが去年の天皇杯での花火の持ち込みという前例もある。ルヴァンカップで J1、J2 チームといわスタ対戦する機会も増えるため安全のために必ず全試合手荷物検査はしてほしい。

と、いただいております。

(中村文哉)

まず、県外の方からの応援として、今後おこなうスタジアム改修に関する募金や署名活動に是非ご協力いただけますと幸いです。

ペンライトに関してですが、Jリーグの試合規定としては禁止ではございません。あくまで試合中の選手への配慮としてクラブ側からは観戦時のマナーとして禁止を促しております。今後あまりにも守っていただけないようでしたら、張り紙お声がけ等も行ってまいり

ます。

わんこそば対決などのイベントは、大型ビジョンが無い為どうしても伝わりづらく申し訳ございません。場所を変えても前方の方しか観戦できなかつたりと状況は大きく改善いたしません。YOUTUBE等での配信も考えましたが、そこにかかる人件費と見合わず、せめて実況等でお楽しみ頂ければと思い行ってまいりました。検討させていただきます。

手荷物検査に関しては、改善を図っていきたいと思います。

(中村文哉)

最後に、⑧その他のご質問に関してですが、ご質問として、

■昨年的那須大亮選手が限定加入した件について、狙い・影響・結果等、今一度みなさまの総括的なお話をお願いします。

■秋田社長が就任会見で語っていた「スタジアムグルメの充実」とは、「参加店舗の充実」なのか「クラブが扱う商品の充実」なのか、どちらでしょうか。現状では後者が中心のように感じますが、それは果たして「充実」なのでしょうか。

■JリーグのプロモーションビデオやCMでキッズールが子供と触れ合うシーンが使われ、大きな反響があったと思います。

しかし、ここ数シーズン（コロナ禍をきっかけとして）キッズールがピッチの外に出てくる場面はほぼありませんでした。

今シーズンも変わらない運用となるのでしょうか。特にアウェイサポーターには「キッズールに会いたい」という人も多い中、直接横並びで写真を撮れないというのは一種の機会損失ではないでしょうか。

■あの超絶無能のサッカー見る目ゼロの番記者をグルージャに関わることから外すことはできないのですか？ 1番重要なサッカーを知らないのだから腹が立ちます。

裁判したらどうですか？徹底的に排除しましょう。秋田さんは優しすぎます。"

と、いただいております。

(中村文哉)

那須選手加入に関しては話題性があり、賛否両論ございましたが、新規サポーターの獲得につながったのではないかと感じています。 特段記載しなかった意図等はございませんでしたが、1週間の加入という記載をしなかったのは、クラブとしての配慮に欠けていた部分はございました。申し訳ございませんでした。

スタジアムグルメの充実に関して、人それぞれ感じ方が異なるとは存じますが、充実自体

への動きは出来たかと存じます。ただ、まだまだご意見いただいたように店舗数も増やしていきたいと考えておりますので、2024 シーズンもお楽しみください。

キズールの出現に関してですが、試合前等皆様とふれあいができる場所に行くように、伝えておきます。

(秋田豊)

スタジアムグルメに関してですが、スタジアムグルメの場所に選手たちが来てファンの方々とコミュニケーション取れるっていうのは、本当にサポーターの方に喜ばれていることだと思います。いわてグルージャ自身もハンバーグであったり、それから豚汁であったり、ドリンクのその種類であったり、いろいろなものをビルドアップさせていきたいと思えます。

そして、今シーズンからは焼き芋を出していきたいと思えます。他にもさらにたくさんの出店者が来られるようにお声がけはしているので、あまり焦らずに待っていただければと思います。

以上とさせていただきます。

【質疑応答】

(司会)

それでは、皆様からの質疑応答に移ります。恐れ入りますが、他の皆様にも平等にご質問をしていただくためにも、ご質問は一人につき1問ずつとさせていただきます。ご質問ある方はいらっしゃいますか。

質問 1

(サポーター)

クラブハウスの建設は今年のいつ頃に着工が始まって完成はいつかという大体のプランを教えてください。

(秋田)

現在ふるさと納税を行ってしまして、3億を集めなきゃいけないというところで、現在1億超集まっております。4月に今現在ある紫波町の運動公園内にある建物を取り壊し、7月に着工をしていくという形で今シーズンの終わりには出来上がるという風に考えております。

(サポーター)

ありがとうございます。共用開始は、では来シーズンからということで考えてよろしいでしょうか。

(秋田豊)

グラウンドに関しては、6月ぐらいからスタートして2ヶ月で完成する可能性があるとのことでしたので、練習場だけでも使用できるようになれば嬉しいです。

## 質問2

(サポーター)

私の希望ですが昔、手札でホームアウェイ関係なく選手交代のお知らせをしていたと思いますが今年もやってほしいです。

(中村)

ありがとうございます。検討させていただきます。

また今年ファンツールとして1つ進行しているものがございまして、推し選手アプリというものを外部で開発しています。詳細が出ましたらまたSNSで発信してまいります。

## 質問3

(サポーター)

選手のSNSの発信について、今シーズン加入された選手が割とSNS発信にすごく前向きな選手がいる。そのSNSの発信で興味がない人だったりとか、今まで目にしたことない人もいわてグルージャ盛岡を知るきっかけになると思うんですけども、クラブ側としてのその選手個人の発信の方針だったりとか、今後の展望などあればお聞きしたい。

(中村文哉)

ありがとうございます。選手個人のSNSの発信に関しては、クラブ側からの何かしらの指示は一切ないようにしていきたいという風に思っています。

まず、選手の自由な表現を尊重するというのが1つ、

そしてもう1つは、クラブが正式に選手のリリースに関して言及をしていく場合は、今後ずっと発信内容に関して、発信前のチェックや内容チェック等を行っていかねばいけないということにも繋がってしまう恐れがありますので、このような方針を取っていきます。ただ、その上で、選手が何かご迷惑をおかけするような内容を発信した場合には、その都度クラブとしての対応を考えさせていただきたいと思っています。

(司会)

以上をもちまして、2024シーズンサポーターズカンファレンスを終了いたします。